

TOMO DACHI



TOMODACHI
イニシアチブ

★
20
18
●

活 動
報 告 書

次世代の グローバルリーダー 育成を目指して

親愛なる友人の皆さま、

TOMODACHI イニシアチブへのご支援に感謝申し上げます。TOMODACHI イニシアチブは、日米間の人と人とのつながりの拡大を継続し、2018年は、TOMODACHI アラムナイとの関係も新たな局面を迎えました。TOMODACHIはこの1年も引き続き、日米両国の地域社会に良い影響を与える、新しい、多様な意見を持つ人々の育成支援ができたことを誇りに思います。これはスポンサーやパートナーの皆さまの寛大なご支援がなければ、実現し得ませんでした。

2011年3月の東日本大震災の発生を受け、ジョン・ルース元駐日米大使のリーダーシップの下、在日米大使館と米日カウンシルが、被災地の若者に希望を与えるために TOMODACHI イニシアチブを発足させました。初年度には数百名の東北の若者にアメリカを経験する機会を提供しました。以来7,800名以上の若者が約300のプログラムに参加しています。今日、TOMODACHIは東北との強固なつながりを大切にしながら、その使命を発展させ、アメリカ人の若者が訪日する機会を提供しているほか、東北のみならず、日本中の若者を支援しています。

2017年3月には、TOMODACHI 世代地域フレームワークを発足させました。これによりそれぞれの地域におけるアラムナイ同士のつながりを拡大し、活力を与え、互いに、またそれぞれの地域の人々に刺激を与えることが可能となりました。この地域フレームワークは、アラムナイが TOMODACHI の経験から学んだスキルを活用して、地域社会に貢献する新しい方法を見つけるために、さらなるリーダーシップの発掘を促すことを目的としています。2018年は、新規、そして継続的なパートナーシップによって、TOMODACHI 世代の広がりとその影響力は拡大し、教育、文化交流、リーダーシップ・プログラムを通じ、日米における若者のリーダーを育成するミッションの強化・促進を行ってまいりました。

若いリーダーらが夢を実現する機会を提供していただいているファウンダー、スポンサー、実施運営団体、アドバイザーや支援者の皆さまのビジョンと多大なるご支援に、心より感謝申し上げます。米日カウンシルと在日米大使館は、日本政府をはじめとした多くのパートナーの皆さまと一丸となって、日米の若者に生涯またとない機会を提供できますことを、誇りに思っています。

日米関係の未来への皆さまのコミットメントに、心より感謝申し上げます。

William F. Hagerty

駐日米大使
ウィリアム・F・ハガティ

Aileen Hirano Inoue

米日カウンシル 会長
アイリーン・ヒラノ・イノウエ



「皆様のご支援は、私たち二国間の未来への支援であり、とても意義あるものです。[中略] 今日、TOMODACHI イニシアチブを通して育成しているリーダーは、私たちを前進させてくれるリーダーです。[中略] あなたたちは我々の未来なのです。」

—ウィリアム・F・ハガティ駐日米大使



使命

TOMODACHI イニシアチブは、米日カウンシルと在日米大使館が主導する官民パートナーシップで、日本政府の支援も受けています。東日本大震災後の復興支援として発足され、教育・文化交流・リーダーシップ育成などのプログラムを通して、日米の次世代リーダー育成を目指します。

背景

2011年3月11日の東日本大震災の発生を受け、米軍と自衛隊は「トモダチ作戦」を通じて東北地方への緊急人道救援活動で協力し、成功を収めました。この時の協力と友情の精神を基盤に、米国と日本は TOMODACHI イニシアチブを開始しました。TOMODACHI は在日米大使館と米日カウンシルが主導し、日本政府の支援の下、日米両国の企業、組織、個人から協力を受け、運営されています。

ビジョン

日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、さらには、より協力的で繁栄した安全な世界へ貢献するために、また、そうした世界で成功を収めるために必要とされている、技術と国際的な視点を備えた日米の次世代リーダーである「TOMODACHI 世代」の育成を目指しています。

将来

TOMODACHI イニシアチブは、革新的な官民パートナーシップの模範としての役割を今後も果たしていきます。そして「TOMODACHI 世代」を育成するアラムナイ(プログラム経験者)・プログラムなど、異文化交流を通じて日米の若手リーダーを育成する各種プログラムを企画・構築し、日米関係を支援する企業・団体とのパートナーシップを拡大していきます。

プログラム

教育プログラムは、短・中・長期の留学体験を通じ、互いの文化に触れることで、日米両国の若者の交流を活性化また拡大し、彼らの人生に刺激を与えます。

文化交流プログラムは、スポーツや音楽、芸術の分野において、日米両国の若者が、相互の国の文化を学び、関心を継続していくためのきっかけを提供します。

リーダーシップ・プログラムは、次世代のリーダーとして、成功を収めるためのスキルや専門知識を得る機会を提供します。

アラムナイ・プログラムは、TOMODACHI の経験を基に実施されるプログラムです。日米の若者たちが経験、スキルや自信を身に付けることで、インスピレーションと活力を得て、夢を実現し、より良い世界の構築に貢献できる人材となるよう支援します。



TOMODACHI は日米の次世代リーダー育成に焦点を当て、異文化交流などの一連の体験を通じて若手リーダーの育成を支援しています。

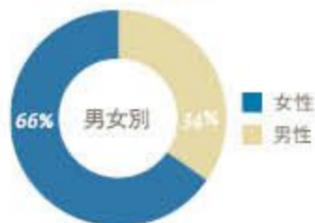
TOMODACHI アラムナイ(プログラム経験者)ネットワーク

<p>異文化体験</p> <p>異文化との初めての接触 次世代の若者に日米関係を紹介</p>	<p>インスピレーション</p> <p>人生の転機となる異文化体験 若者の異文化体験</p>	<p>学習</p> <p>知的好奇心を満たす学びの機会 社会貢献や地域社会での活動</p>	<p>アラムナイ</p> <p>次世代リーダーの育成 起業家精神育成プログラム 女性のためのメンターシッププログラム</p>
--	--	---	--

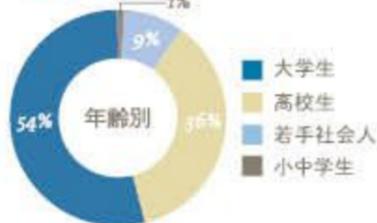
先駆的な
官民パートナーシップ



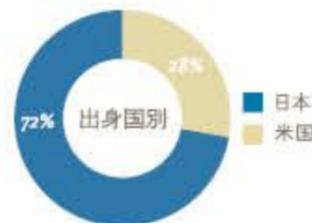
66% 女性



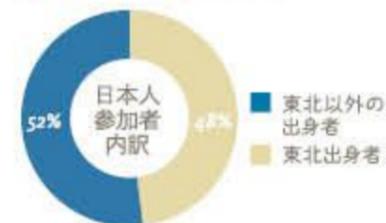
54% 大学生



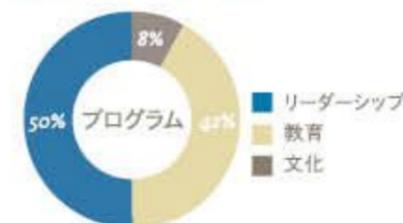
72% 日本



48% 東北出身者



50% リーダーシップ



2018年 TOMODACHI プログラム開催地 (日本)



2018年 TOMODACHI プログラム開催地 (米国)



「プログラムに参加して最も得たものはTOMODACHI(友達)です。TOMODACHIといると、自分一人では決してできないことも、できると思えます。アメリカでは毎日が挑戦でしたが、その経験のおかげで自信と勇気を持つことができるようになりました。」
—玉城大地、TOMODACHI Hondaグローバル・リーダーシップ・プログラム





ストラテジック・パートナー

ストラテジック・パートナー 持続可能な効果をもたらすパートナーシップ

TOMODACHIイニシアチブを支援するストラテジック・パートナーは、ユニークな機会を提供する特別なプログラムを通して、次世代を担う若者の人生に大きな影響を与え続けています。2018年には、中学生から若手社会人まで500名を超える参加者が、ストラテジック・パートナーの支援で実施された16件のプログラムに参加しました。

ストラテジック・パートナー・プログラムは、異文化交流、奨学金、フェローシップ、キャリア・ディベロップメントを含む多彩で持続的な関係や繋がりを得ることを可能にします。プログラム終了後も、多様なアラムナイ(プログラム経験者)は、「TOMODACHI世代」としてアラムナイ向けの様々なイベントやワークショップ、プログラムに参加して交流し、お互いに刺激を与えながら成長し続けています。

「TOMODACHIを通して、世界でリーダーとして活躍するためには、多様な文化に対する寛容性を身に付けることが重要であるという事を学びました。」
—フアン・ヘルナンデス、TOMODACHI・MUFG国際交流プログラム



2018年 ストラテジック・パートナー・プログラム

教育プログラム

TOMODACHI・MUFG 国際交流プログラム

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループの支援で実施されている、相互交流プログラムは7年目を迎えて一新されました。初年度となった2018年は岩手・宮城・福島の3県から中学生20名がカリフォルニア州ロサンゼルス市で2週間滞在をしました。ロサンゼルスならではの多様性をテーマとして、ホームステイ体験などの活動が実施されました。参加者は日系アメリカ人が経営する田中ファームや在ロサンゼルス日本国総領事館、MUFGユニオンバンクへの訪問や全米日系人博物館での見学を通して、日系人の歴史や日米関係についての知識を深めました。また、現地で出会った人々と新しい友情を育み、両国の絆を強固なものとなりました。



TOMODACHI 住友商事奨学金プログラム

2014年から実施されている学部生を対象とした1年間の奨学金プログラム。米国留学のために財政援助を必要としている学生を対象としています。本プログラムは、日米の架け橋として活躍する、グローバルな視野を持った若手リーダーを育成する目的で設立されました。住友商事株式会社よりさらなる支援を受け、2018年度からより多くの大学を対象に実施されており、日本全国から10名の学部生が選出されました。留学期間中には、米州住友商事のニューヨーク本社で研修が実施されたほか、本年度から住友商事の海外経験のある社員と奨学生が1対1のメンタリング・プログラムを開始しました。



TOMODACHI-UNIQLO フェローシップ

2013年から開始された日本のビジネスおよびファッション業界を担う次世代リーダーを支援するプログラム。米国有数の教育機関であるニューヨーク州立ファッション工科大学(FIT)とパーソンズ・スクール・オブ・デザインとの2教育機関における留学の機会を提供します。株式会社ファーストリテイリングの支援継続により、ファッション業界におけるテクノロジーの活用を目指している大学院生とステージディレクションまたはミュージック・ビデオ制作の分野での活躍を目指す大学院生が奨学金を受賞しました。また、8月に東京で同プログラムのアラムナイと現参加者が一堂に会するイベントが初開催され、本プログラムで学んだ知識や将来の目標を共有しました。



人と地域に力を与える

「個人として、困難な状況に立ち向かうには、言葉以上に情熱に動かされることを学びました。つまりそれは、『女性だから』とか『東北だから』という言い訳を並べるのではなく、私にはできることがたくさんある、と思えるようになったということです。」

— 瀧川加織, TOMODACHI 東北グラスルーツ・リーダーシップ・アカデミー



リーダーシップ・プログラム



**Building the TOMODACHI Generation:
Morgan Stanley Ambassadors Program**

2018年は日本人学生12名が米国人学生9名と共にワシントンD.C.で行われた2週間の集中型プログラムに参加しました。参加者は、市民社会という概念や社会問題解決における市民社会の可能性、日米両国で市民社会が果たす役割について学ぶ貴重な機会を得ました。日米の学生は3つのチームに分かれ、2011年の東日本大震災で甚大な被害を受けた東北地方が抱える社会問題を解決するためのアクションプランを策定しました。帰国後は、モルガン・スタンレー・ホールディングス株式会社で同社社員に向けて策定したアクションプランを発表しました。



**TOMODACHI 大和ハウス
学生リーダーシップ会議**

本会議は2018年春にカリフォルニア州ロサンゼルス市で開催され、日米の40名を超える学生が参加しました。本年のテーマ「日米ビジネスとコミュニティパートナーシップ：明日のグローバルリーダーの実践的な洞察」のもと、グローバルなキャリアを築きたいと考えている将来の日米のリーダー育成のために、日米関係におけるイノベーションとエンゲージメント、リーダーシップ研修、スキル構築に焦点を当てたプログラムが実施されました。また、多様な参加者の間で異文化交流の機会が設けられました。



**TOMODACHI Honda
グローバル・リーダーシップ・プログラム**

本プログラムは「TOMODACHI Honda 文化交流プログラム」の成功を受け、2018年に新設されました。日本全国の高校生にグローバルなリーダーシップ・スキル構築や日米の文化交流の機会を提供します。20名の高校生が2週間にわたってカリフォルニア州ロサンゼルス市およびホームステイを体験したオハイオ州メアリーズビル市を訪問しました。同州ではHondaの生産工場の見学をはじめ、参加者が自分自身にチャレンジしたり、夢の実現を目指した研修に参加しました。



**TOMODACHI J&J 災害看護研修
プログラム**

本プログラムは、看護を専攻する学生の災害看護に関する知識を深めるために2015年に設立されました。ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社の支援継続を受けて4年目のプログラム実施となりました。2018年は岩手、宮城、福島県の3県出身の学生7名が仙台市で行われた事前研修に参加し、その後、ワシントンD.C.とニューヨーク、ニュージャージー州で研修を受けました。現地では、災害看護の専門機関への視察や、災害介護に携わるリーダーらと交流を実施。また、帰国後、報告会でそれぞれの経験を発表しました。



**TOMODACHI MetLife Women's
Leadership Program**

6年目を迎えた本プログラムは、東京、大阪、札幌、那覇の4都市で開催されました。10か月間にわたり、50名の女子大学生はリーダーシップ研修と実務経験豊かな女性リーダーたちによるメンターシップの機会を得ました。プログラムの終盤にはワシントンD.C.とニューヨークで米国研修が実施され、学生たちは学んだスキルを実践し、グローバルな環境で活躍するリーダーたちから学びました。2013年の設立以来、538名(学生269名とメンター269名)が本プログラムに参加しています。



**TOMODACHI Microsoft iLEAP Social
Innovation and Leadership プログラム**

本プログラムは日米両国、ひいては世界にポジティブな変化をもたらすことができる日本の次世代の社会起業家や地域リーダーを育成します。2018年は学生と若手社会人計24名がワシントン州シアトル市で、フィランソपी、リーダーシップ、起業スキルの研修に参加したほか、マイクロソフト本社を訪問しました。帰国後もリーダーシップ集中研修に参加し、マイクロソフト社の社員などの専門家からサポートを受け、各自が策定したプロジェクトに磨きをかけました。



**TOMODACHI-Mitsui & Co.
リーダーシップ・プログラム**

6年目を迎えた本プログラムでは、日米の官民両分野から、それぞれ10名の若手リーダーが相手国を往訪し、1週間の視察や交流プログラムに参加しました。米国代表団は宮城県と東京都を訪れ、日本代表団はワシントンD.C.とマサチューセッツ州ボストン市を訪問しました。「イノベーション、起業家精神、リーダーシップ」というプログラムのテーマにそって、参加者は日米関係の繁栄と、経済的な活力をもたらすための貢献について様々な議論を交わしました。



**TOMODACHI サマー
ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム**

2012年に開始された本プログラムは、岩手、宮城、福島の3県の高校生100名が、カリフォルニア大学バークレー校が実施している3週間集中コースの問題解決型ワークショップ「Y-PLAN (Youth-Plan, Learn, Act, Now)」に参加し、地域社会の活性化について学びます。2018年は、バークレー市近郊のリッチモンド市を活性化するアクションプランを策定し発表しました。同プログラムを通してリーダーシップや地域社会の問題解決への洞察力を身に付けた高校生は、東北地方を支援する様々な活動に取り組んでいます。



**TOMODACHI 東北グラスルーツ・
リーダーシップ・アカデミー**

JPモルガンの支援で、2018年に東北地方から女性の起業家および地域リーダー10名がカリフォルニア州ロサンゼルス市で開催された本プログラムに参加しました。参加者は経験や能力を活用して、他のリーダーたちとつながり、自身が取り組んでいる社会貢献活動の影響を拡大する方法について学びました。また、日系アメリカ人の女性起業家から成功に至るまでの体験談を伺ったり、地域社会が持つパワーについての学びを得たり、震災後の体験談を公務員や教育者、地域リーダーと分かち合うなどの経験を得ました。

人と地域に力を与える

文化交流プログラム



TOMODACHI ゴールドマン・サックス・ミュージック・アウトリーチ・プログラム

2018年秋、米国の非営利団体「ヤングアメリカンズ」の38名のアーティストが岩手県および福島県の被災地にある公立の小中学校を訪問し、900名以上の児童生徒と教員を対象に歌とダンスを駆使したワークショップを実施しました。参加者は世界共通語である音楽を通して共に学び、お互いの強みを尊重し、自分の可能性を発掘しました。また、多様性に富み、エネルギーに満ちたヤングアメリカンズのキャストと交流を持ったことで、自信を得て、異なる言語や文化を学ぶ意欲を掻き立てられました。



TOMODACHI サントリー音楽奨学金

2014年から実施されている本奨学金プログラムは、米国有数の名門音楽大学であるジュリアード学院、パーカー音楽大学、サンフランシスコ音楽院で学ぶ日本人留学生10名に奨学金を提供しています。本プログラムは、日米関係の強化に熱意を持ち、音楽を通してお互いの国や文化の価値を認め、世界に貢献し、成功していくために必要なグローバルに通用する技能とマインドセットを兼ね備えた日本人の若手ミュージシャン、アーティストの育成を目指しています。



「チームで協働することや、聴衆の前で発表すること、新しい人々との出逢いなど、さまざまな場面で自分により自信が持てるようになりました。さらに、異なる分野や経験を持つたくさんの方々との出逢いにより、将来の目標がより明確になりました。」

—柴田涼子、Building the TOMODACHI Generation: Morgan Stanley Ambassadors Program



「留学生の話聞いて将来へ希望が見えてきました！
まずは(自分自身の)挑戦ができるよう頑張ります。」



株式会社ファミリーマートと株式会社ローソンの多大なご支援によって設立されたTOMODACHIコンビニ基金は、東北地方の復興と次世代のリーダー育成を支えています。2018年には、「TOMODACHI女子高校生キャリアメンタリングプログラム in 福島2018」を支援し、福島県内の高校2年女子生徒126名が4つのセッションで構成されるキャリア教育プログラムに参加しました。参加者が将来に対する視野を広げ、未来を切り開く自信をつけることが本プログラムの目的です。プログラムの各セッションで、参加者は将来の夢をしっかりと考える機会や、大学生や社会で活躍している女性から困難を乗り越えた経験談を伺う機会を得ました。その集大成として後輩たちにそれぞれの学びを発表し、プログラムは幕を閉じました。

東北の若者に活力を



TOMODACHI 交流基金プログラムは、2012年4月に、トヨタ自動車株式会社、三菱商事株式会社、株式会社日立製作所の寛大なご支援により設立されました。本基金は、岩手、宮城、福島県の3県の若者に革新的な教育交流プログラムに参加する機会を提供しています。2018年には7件のプログラムが実施され、東北と米国の若者の交流が促進されました。プログラム終了後、アラムナイはそれぞれの地域のニーズや課題に取り組みながら、お互いに繋がりを持ち続けています。2019年も引き続き東北に焦点を当てた、成功に導く有意義なプログラムを支援し、地域に活力を与えたいと考えている若い人たちに人生の転機となる機会を提供します。



「日本での研修は、私にレジリエンスの本当の意味を教えてくださいました。レジリエンスは困難を乗り越える能力だけではない。福島の人々は、レジリエンスを身に付けるためには、物事に対する自身の姿勢が重要である、ということを私に教えてくださいました。」

— ジョネラ・キャンボス、TOMODACHIユース・アンバサダーズプログラム



2018年TOMODACHI 交流基金プログラム

2018年シカゴ・多賀城市 TOMODACHI 交流プログラム | TOMODACHIダラス・仙台 ヤングアンバサダーズプログラム 2018 | 2018-2019 TOMODACHI ランドルフ・メイコン・リサーチ交換プログラム | HLAB リーダーシップ・プログラム 2018 | TOMODACHI 世代グローバル・リーダーシップ・アカデミー 2018 | TOMODACHI 米日ユース交流プログラム 2018 | TOMODACHI ユース・アンバサダーズプログラム

異文化で活躍する リーダーの育成



スポンサーやサポーターと称される協賛・支援企業・個人からの寄付が、教育交流やリーダーシップ育成プログラム、スポーツ・音楽・芸術などの文化交流プログラムまで、幅広いTOMODACHIプログラムを支えています。2018年には15件の一般基金プログラムが実施され、中学生から若手社会人までの420名を超える参加者にとって人生の転機となりました。また、参加者はリーダーシップとネットワーキングのスキル向上を図ったほか、日本全国の参加者は米国各地の若者と交流しました。

「日本では決して得ることができない経験ができました。現地で生活することにより、障がい当事者問題のアドボカシーに関する良い部分だけではなく、様々な問題を肌で感じることができました。本研修を通じて物事をより多角的に考えられるようになったと思います。」

— 壁谷知茂、TOMODACHI 障がい当事者リーダー育成米国研修



2018年一般基金プログラム

2018 TOMODACHI CIE 日米草の根交流サミット シアトル・ワシントン州大会 | 2018年 TOMODACHI 新生リーダープログラム | 2018 TOMODACHI NAJAS 草の根交換プログラム - サンアントニオ・熊本 | 2018 TOMODACHI-STEM @ Rice University Program | 第8回米国大使館・慶應湘南藤沢キャンパス (SFC) TOMODACHIアントレプレナーシップ・セミナー | TOMODACHI グローバル・クラスメート 2017-2018 | 日米学生会議 | Space Camp supported by TOMODACHI イニシアチブ | TOMODACHI 障がい当事者リーダー育成米国研修プログラム | TOMODACHI ブリッジング・スカラーズ・プログラム | TOMODACHI フォスターユース・リーダーシップ・プログラム | TOMODACHI インターンシップ・プログラム | TOMODACHI イノエ・スカラーズプログラム | TOMODACHI 島本・フランクフォート教育交換プログラム | TOMODACHI ソーシャルアントレプレナーシップ・プログラム

関わり続ける



TOMODACHIアラムナイ・リーダーシップ・プログラムは、日米関係を担う次世代のリーダーが、次のステージに向けて飛躍するための枠組みを提供しています。TOMODACHIの経験を基に展開される本プログラムは、日米の若者が経験やスキル、自信をさらに身に付けることで、勇気と活力を得て、さまざまなアラムナイ主導のプログラムを通して、夢を実現し、より良い世界の構築に貢献できる人材へと成長するように支援します。

TOMODACHIアラムナイ・プログラムの4つの柱

クリティカル&イノベティブ・シンキング



既存概念に捉われない、時に批判的で革新的な考え方を学び、21世紀の成功と繁栄に不可欠な、優れた課題解決スキルを養います。

市民活動



TOMODACHIを通じて得たグローバルな体験を地域社会に還元し、新たな知識、スキル、価値やモチベーションを創出して地域に貢献します。

社会に出る準備



メンタリングやアラムナイ同士の交流を通して、次世代のリーダーとして必要な知識やスキルを身に付ける機会を提供し、実力を備えたグローバル人材となるよう支援します。

つながりと継続性



TOMODACHI世代の一員として、アラムナイ同士が交流する中で、更にネットワークを拡大し、地域の一員として、そしてリーダーとして、人と人との繋がりを生かしていきます。

これらの柱に着目して、アラムナイ同士が繋がりを刺激し、さまざまなプログラムを、アラムナイ自身が企画・実施します。TOMODACHIアラムナイ・リーダーシップ・プログラムは、それぞれのプログラム終了後も、アラムナイが協働するイベントやワークショップ、プログラムを通して関わり続け、エンバワメントする機会を提供します。

2018年12月末までに、293件を超えるTOMODACHIプログラムに参加した7,800名以上のアラムナイがコミュニティを形成しています。ブルデンシャル財団の支援により、2018年には43件のTOMODACHIアラムナイ・プログラムが実施され、941名のアラムナイが参加しました。

関わり、刺激を受ける アラムナイの繋がりの創造

アラムナイ・プログラムのハイライト

TOMODACHIアラムナイ地域フレームワーク

TOMODACHIアラムナイ地域フレームワークは、それぞれのコミュニティやその先に貢献する次世代のリーダー育成のためのリーダーシップ・プログラムで、日本全国のTOMODACHIアラムナイが繋がることのできる有意義なプラットフォームを提供します。本フレームワークは、TOMODACHIプログラムに刺激を受けた情熱を持つアラムナイたちの力強いネットワークが、それぞれの地域で真の変化を起こすことのできるプログラムを提供します。また、本フレームワークは、TOMODACHIアラムナイ・リーダーシップ・プログラムが、アラムナイによる、アラムナイのためのプログラムであり続けることを支えています。

日本の各地域を代表するチームは、若手社会人アラムナイの地域メンターに支えられ、若手のアラムナイの地域リーダーが活躍します。地域リーダーは、1年間のリーダーシップ研修に参加します。研修では、それぞれの地域のアラムナイは年間2度実施するイベントを通して、地域の抱える課題や機会について関心を高める手法を学びます。2018年には、持続可能な開発目標や地域社会との関わり、食と観光、学生による起業、多様性やLGBTQなど多岐にわたるテーマに基づいたイベントが実施されました。

米日カウンシル・アニュアル・カンファレンス

2018年11月に東京で開催された「米日カウンシル・アニュアル・カンファレンス」において、TOMODACHIアラムナイの成果がハイライトされました。3名のTOMODACHIアラムナイが登壇し、プログラムを通して得た自信や、刺激を受けた新たな出逢いなど、人生を変えるようなTOMODACHIの経験を話しました。また併せて開催された「TOMODACHIワークショップ」には、50名を超えるTOMODACHIアラムナイが参加し、リーダーシップのスキル向上や、若手社会人と交流を深めたほか、それぞれの多様なTOMODACHIの経験を共有しました。



アラムナイ・プログラムとイベント

TOMODACHIアラムナイ・プログラムは、TOMODACHIアラムナイ地域フレームワークで形成された繋がりを基に、当初のTOMODACHIの経験を活かし、多様で革新的なワークショップやイベントを提供します。



TOMODACHI世代サミット2018

日米両国の高校生、学生、若手社会人を含む270名のTOMODACHIアラムナイが、数多くのワークショップやディスカッションに参加するため、TOMODACHI世代サミットに集結しました。本イベントはアラムナイで構成された委員会が、地域リーダーや登壇者、ワークショップのファシリテーター、ボランティアを務めるその他のアラムナイの助けを得て企画・運営しました。2018年のサミットは2つのテーマ「今、世界はTOMODACHIを必要としている」と「グローバルな領域における、次なる日本としてのステップ」に沿って実施されました。



TOMODACHI世代グローバル・リーダーシップ・アカデミー 2018

東北出身のアラムナイが、クロスセクター・イノベーションとグローバル・リーダーシップに着目した4日間のプログラム、TOMODACHI世代グローバル・リーダーシップ・アカデミー(GLA)に集結しました。本プログラムは、高校生は参加者として、大学生はリーダーと運営をサポートするスタッフとしてプログラムに参加し、グローバルなスキルや視点を学ぶ中でお互いを刺激し合います。2018年のGLAは「Creating the Future Together ~なき道を拓く~」をテーマに、アラムナイはセクターを超えた協働の重要性を学びました。約50名のアラムナイが集結し、東北のコミュニティをサポートする次なる一歩を踏み出すためのヒントを得ました。

その他の2018年TOMODACHIアラムナイ・プログラム

TOMODACHIアラムナイ インターンシッププログラム | 在名古屋米国領事館 首席領事との意見交換会 | TOMODACHI ふくしま香 LINKプログラム | 米日カウンシル・ジャパン主催ビジネス・アドバイザリー・ボードミーティング | TOMODACHIアラムナイによる西日本豪雨支援(岡山県倉敷市) | 在福岡米国領事館 首席領事とラウンドテーブル形式の意見交換会

Q&A Alumni



チデラ・オニエカ

ワシントンD.C. 出身

「地球の裏側の人々に出会う時、
遠くに目を向けてしまいがちですが、
私たちはそれほど遠くないのだと学びました。」

TOMODACHIプログラムに参加した後、チデラは日本語の勉強を続けていました。しかし、多くの学校では単位が認められている外国語のクラスが限られていることを知りました。この状況に疑問を感じたチデラは、ワシントンD.C.の教育委員会を前に、外国語習得の重要性と、それによって家族やコミュニティに与える前向きな影響について証言しました。

TOMODACHIプログラムを通してどのような影響を受けましたか？

大きな変化のひとつは、プログラム参加後、自分の考えを発言する必要性を感じるようになったことです。この変化によって人間として成長し、他者との関係も好転しました。そして私は、出会った大概の人と、打ち解けることができていることを学びました。



TOMODACHI世代はコミュニティやそれを越えたところに、どのような影響を与えますか？

日本を訪問した時、東京のような都会に行くことしか興味がありませんでした。都会から離れた地方には行きたくありませんでした。しかし、観光客に人気のある東京よりも南三陸町や気仙沼市のような地方がより訪問者を必要としていると伺ったとき、日本には見るべき場所がたくさんあることに気づきました。気仙沼市の漁業や3月11日の地震(東日本大震災)の後、人々がどのように復興を進めてきたのかを知ることは重要なことです。



「TOMODACHIプログラムを通して、
日本を訪れたいと考えている人たちに、
知られていない事柄を共有することの大切さを学びました。」



木下大輔

宮崎県 都城市出身

「失敗も含め、引き受けたことはすべて体現し、
率先して動いていくことが
リーダーとしての責任だと思います。」

木下さんは、先天性の身体的な障害をもっていますが、中学校で野球部への入部を断られるまで、子どものころから野球に親しんできました。パラリンピアンとの著書に出会い刺激を受け、陸上競技をはじめた木下さんは、100mと800mの競技で現在国内第3位にランクされています。TOMODACHIプログラムでは、起業家精神を学び、シリコンバレーを訪問しました。

TOMODACHIプログラムを通してどのような影響を受けましたか？

プログラムを通して、新しいビジネスの手法を学び、その国際基準を知る機会を得ました。私が今まで学んできた手法とは全く異なる新しいビジネス構築方法にたどり着きました。思いついたら実行、アウトプット、認知と修正、そしてインプットを迅速に日々繰り返すことの重要性を学びました。この取り組み方は、2020年のパラリンピックを目指して実施している、陸上競技のトレーニングと似ていることに気づきました。

あなたにとってリーダーシップとは？

私の取り組みを、チームメンバーと分かち合うことです。リーダーとして、敢えて失敗をみせることで、他のメンバーが失敗できる環境を創ることも重要だと思います。



「TOMODACHIは、私にとって
追い風のような存在です。
いつも私の背中を押してくれます。」



ジョナサン・キャンフィールド

バージニア州 グレートフォールズ出身

「TOMODACHIプログラムに参加していなかったら、
私が今歩んでいる道は全く違うもの
になっていたことでしょう。」

ジョナサンは、ボストンで開催された、日米関係に興味のある学生が集結したプログラムに参加しました。そこで、日米関係に貢献したいという彼のキャリアの選択を明確にしてくれたロールモデルと出会いました。TOMODACHIプログラムを通して構築したネットワークがきっかけとなり、彼は日本へ戻り、在日米国大使館でインターンとして勤務することになりました。

TOMODACHIプログラムを通してどのような影響を受けましたか？

TOMODACHIプログラムや他のアラムナイとしての機会を通して、日米両国の公職につく方々に出会う機会があり、刺激を受け、政府機関に従事し、日米関係に貢献することを希望するようになりました。



あなたにとってリーダーシップとは？

教室の中では学べないことだと思います。ワシントンD.C.で、私が参加したプログラムとは別のTOMODACHIプログラムに参加していた、東北の看護学生らに出会いました。とても緊張した面持ちでしたので、自分もプログラムへ参加した時、同じように感じていた事を共有しました。大勢の前での発表に緊張するのは彼らだけではないとわかり、気持ちがほぐれたようでした。彼らの発表はとても重要なものであり、自信をもって発表するように励ませたことを嬉しく思いました。



「日米関係にどのように関わればよいか
分からない人たちを支援し、私が受けた恩を
返していきたいと思っています。」



三浦妃梨里

岩手県 宮古市出身

「自分の思いに正直でいられること、そして
私が私であることを受け入れてくれるこのコミュニティ
の一部であることに、とても感謝しています。」

三浦さんは、小学校6年生の時に東日本大震災を経験し、故郷が壊滅的な被害を受けました。高校1年生の時にTOMODACHIプログラムで渡米し、リーダーシップと地域貢献について学びました。TOMODACHIプログラムの経験が、高校卒業後、1年間シアトルへ留学するという選択を後押ししました。

TOMODACHIプログラムを通してどのような影響を受けましたか？

もともと目立ちたいとか、リーダーになりたいという気持ちは強くはありませんでしたが、TOMODACHIプログラムに参加したことで、自分の思いを形にして実行したいという気持ちが芽生えました。この気づきが「TOMODACHIアラムナイ・リーダーシッププログラム」の地域リーダーを務めるきっかけになりました。



TOMODACHI コミュニティーについて、どう思いますか？

TOMODACHIはチームで活動する機会が多く、同じ思いを持った仲間を惹きつけます。活力のあるコミュニティで、強い絆を持った家族のような関係性です。あまり会えなくても、すぐに打ち解けられるのです。



「リーダーは、チームメンバーに耳を傾け、
励まし、モチベーションを高める場を創り、
よい結果を導き出すべきです。」

米日カウンシル(U.S.)および米日カウンシル—ジャパン



米日カウンシル(U.S.)および米日カウンシル—ジャパンは、在日米大使館と協力し、官民パートナーシップである TOMODACHI イニシアチブを管理・運営します。プログラムの開発と管理、コミュニケーションと普及活動、マーケティング、活動資金調達、寄付者との折衝などを主な活動としています。

米日カウンシル(U.S.)は、ワシントンD.C.に本部を置く501(c)(3)非営利非課税組織で、日米のあらゆる世代の人と人をつなぐ活動をする団体です。米日カウンシル—ジャパンは、東京で設立された公益財団法人です。米日カウンシル—ジャパンと米日カウンシル(U.S.)は別組織で、それぞれ独立した理事会によって運営されますが、双方が緊密に協力してTOMODACHIを運営しています。

米日カウンシル—ジャパン理事会

(2018年12月末日現在)

代表理事 アイリーン・ヒラノ・イノウエ
米日カウンシル 会長

代表理事 ローヤン・ドイ
ブルデンシャル・ファイナンシャル・インク(日本駐在員事務所)
国際保険部門 チーフ・コンプライアンス・オフィサー

副理事長 デービッド 西田

監事 片山 隆一

トッド・ガイド
ビームサントリー 社外取締役

川原 K. ラッセル
渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 パートナー

スタン・コヤナギ
オリックス株式会社 取締役 兼 常務執行役
ERM担当 グローバルジェネラルカウンセル

ゲイリー・S・モリワキ
ウインデルズ・マーク・レイン・ミットendorf法律事務所
パートナー

米日カウンシル—ジャパン 評議員会

(2018年12月末日現在)

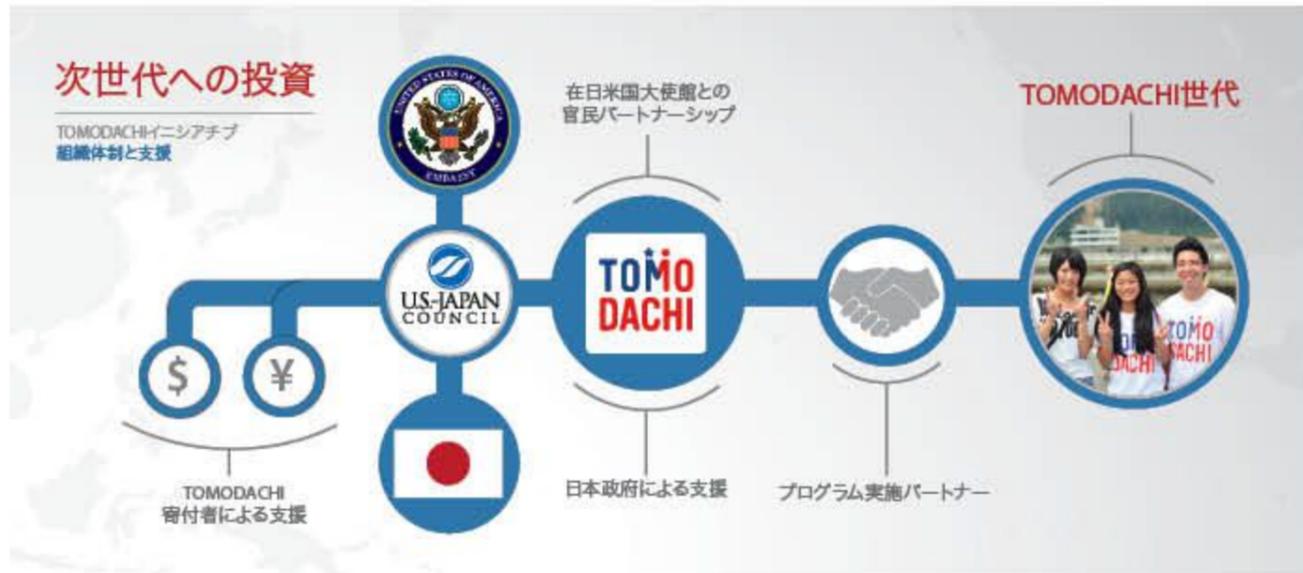
会長 キャシー 松井
ゴールドマン・サックス証券株式会社 副会長

藤井 ダニエル 一範
トラスト・キャピタル株式会社 代表取締役社長

ウィリアム・ジーザス・アイアトン
アイアトン・エンターテイメント 代表取締役

大河原 愛子
株式会社ジェーシー・コムサ 代表取締役会長

高田 ヘンリー 聖一
シンテックジャパン株式会社 代表取締役



以下の財務報告書は、TOMODACHI イニシアチブ設立以降の米日カウンシル—ジャパンおよび米日カウンシル(U.S.)の要約された財務報告書です。米日カウンシル—ジャパンの監査済み財務諸表は www.tomodachi.org/ja、また米日カウンシル(U.S.)の監査済み財務諸表は www.usjapancouncil.org に掲載されています。

米日カウンシル(連結)

TOMODACHI 累計寄付額と支出(各年)

	2011-17	2018	2019-21 (暫約済み)	TOTAL
TOMODACHIへの寄付金及誓約寄付金				
米日カウンシル—ジャパン	\$26,385,951	\$2,822,343	\$5,205,172	\$34,413,466
米日カウンシル(U.S.)	18,570,415	2,434,538	2,724,695	23,729,648
現物寄付(U.S.及びジャパン)	4,318,714	469,787	1,311,217 ¹	6,099,718
寄附金及び誓約寄附金合計	\$49,275,080	\$5,726,668	\$9,241,084	\$64,242,83

TOMODACHIに係る経費

	2011-17	2018	2019-21 (暫約済み)	TOTAL
TOMODACHIに係る経費(プログラム、プログラム支援の経費)				
米日カウンシル—ジャパン及びプログラム、プログラム支援の経費	\$20,369,349	\$3,172,333	\$4,684,655 ²	\$28,226,336
米日カウンシル(U.S.)及びプログラム、プログラム支援の経費	14,990,571	1,310,982	2,452,226 ²	18,753,778
TOMODACHIに係る経費(プログラム、プログラム支援の経費)	\$35,359,920	\$4,483,315	\$7,136,880	\$446,980,115
管理費合計				
米日カウンシル—ジャパン 管理費	\$1,244,700	\$428,126	\$520,517 ²	\$2,193,343
米日カウンシル(U.S.) 管理費	1,004,482	381,378	272,470 ²	1,658,330
管理費合計	\$2,249,182	\$809,504	\$792,987	\$3,851,673
現物寄付(U.S.及びジャパン)	\$4,318,714	\$469,787	\$1,311,217 ¹	\$6,099,718
経費合計	\$41,927,816	\$5,762,606	\$9,241,084	\$56,931,506

米日カウンシル(U.S.)

TOMODACHI 財政状況 - 要約(USD)	2018	2017
流動資産		
現金寄付	\$2,570,710	\$2,685,629
未収入金	1,379,057	506,276
その他の流動資産	-	-
無形資産 - 商標	2,335	2,335
資産合計	\$3,952,102	\$3,194,240
流動負債		
未払金	\$63,441	\$51,620
その他の流動負債	-	-
正味資産	\$3,888,661	\$3,142,620
負債及び正味資産合計	\$3,952,102	\$3,194,240

収支要約	2018	2017
収入		
企業からのTOMODACHI寄付金	\$2,382,346	\$1,450,960
特定資産受取利息および その他の利息	52,192	174,376
収入合計	\$2,434,538	\$1,625,336
支出		
プログラム及びプログラム支援	\$1,310,982	\$1,967,912
管理と資産調達	381,378	218,657
プログラム経費合計	\$1,692,360	\$2,186,569
為替損益	3,863	23,041
正味資産の変動額³	\$746,041	-\$538,192
期首の正味資産	3,142,620	3,680,812
期末の正味資産	\$3,888,661	\$3,142,620

米日カウンシル—ジャパン

TOMODACHI 財政状況 - 要約(USD)	2018	2017
流動資産		
現金寄付	\$2,291,154	\$3,366,521
未収入金	-	-
その他の流動資産	14,933	4,902
無形資産 - 商標	1,906	26,646
資産合計	\$2,307,993	\$3,398,069
流動負債		
未払金	\$384,260	\$541,028
その他の流動負債	-	27,333
正味資産	\$1,923,733	\$2,829,709
負債及び正味資産合計	\$2,307,993	\$3,398,069

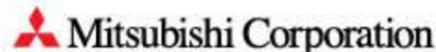
収支要約	2018	2017
収入		
企業からのTOMODACHI寄付金	\$2,821,547	\$3,133,691
特定資産受取利息および その他の利息	796	83,357
収入合計	\$2,822,343	\$3,217,048
支出		
プログラム及びプログラム支援	\$3,172,333	\$3,583,291
管理と資産調達	428,126	335,239
プログラム経費合計	\$3,600,459	\$3,918,530
為替損益	-127,861	-646
正味資産の変動額³	-\$905,976	-\$702,128
期首の正味資産	2,829,709	3,531,837
期末の正味資産	\$1,923,733	\$2,829,709

1. 契約期間内の現物寄付に値する額。
2. 2019 - 2021年のプログラムおよびプログラム経費管理費、資金調達とその経費管理費の見積額。
3. 純資産変動総額は、今年度の寄付額と特定期間の支出額のみを反映しています。
純資産のマイナス変動は、現金残高や寄付額と支出額のバランスがマイナスであることをしめすものではありません。
寄付の受領と支出発生の記録時期により純資産変動総額がプラスやマイナスの変動となる場合があります。
4. TOMODACHI ジャパンの財務は、円貨で管理され、記録用としてドル建てに換算しています。

感謝を込めて

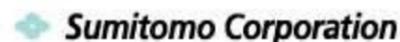
ファウンディング・ストラテジック・パートナー

(2012年創立当初より\$1,000,000以上)



ストラテジック・パートナー

(\$1,000,000以上)



協賛企業

(\$100,000 から \$1,000,000)



支援企業

(\$10,000 から \$100,000)

Air Aroma Japan 株式会社
渥美坂井法律事務所・外国法共同事業
エクソンモービル・ジャパングループ
早坂穀税理士事務所

株式会社ホテルオークラ東京
日本アイ・ビー・エム株式会社
株式会社帝国ホテル
公益財団法人 公益法人協会

KPMGジャパン
オリック・ハリントン・アンド・サトクリフ
外国法事務弁護士事務所
凸版印刷株式会社
トライコー株式会社

TOMODACHI 運営へのご支援

次世代リーダーを育成する TOMODACHI イニシアチブの使命に共感し、その運営と組織基盤強化のためにご支援いただいているパートナー企業の皆さまに、心より感謝申し上げます。



武田薬品工業株式会社より、TOMODACHI イニシアチブの運営・管理面の強化のためのご寄付をいただいています。組織が効率的にそのミッションを達成するためには、専任スタッフと十分なリソースが必要です。武田薬品工業株式会社からの多額のご寄付により、参加者の人生を変えるようなプログラムを開発し、TOMODACHI 世代を育成し、強固で永続的な日米関係構築に取り組むことが可能となっています。



Evolution Financial Group より、2015 年春からニューオータニガーデンコート内に、米日カウンセラー・ジャパンと TOMODACHI イニシアチブのオフィスおよび会議スペースをご提供いただいています。機能的で利便性の高いオフィスで安定したプログラム運営が実現し、TOMODACHI イニシアチブの使命を達成することに深く感謝します。

高まる TOMODACHI の広がり

さまざまな形で TOMODACHI の知名度を高め、幅広くご周知いただいております。数多くの企業の皆さまに厚く御礼申し上げます。



TOMODACHI ロゴを機体にデザインした全日空機



羽田空港内の各所に設置された TOMODACHI の看板

実施運営パートナー パートナーシップの成功

TOMODACHI ではプログラム運営にあたり、パートナーとして多くの実施団体と協力して、次世代を担う若い世代に、人生の転機となるような機会を提供しています。2018 年には TOMODACHI の資金提供により、以下のパートナーがプログラムを実施しました。

アメリカン・カウンスルズ | パークリー音楽大学 | Children's National Medical Center | Cultural Vistas | 特定非営利活動法人エディック | ニューヨーク州立ファッション工科大学 | Frankfurt Independent Schools | 一般財団法人 SFC フォーラム | Global Kids Inc. | 一般社団法人 HLAB | iLEAP | 特定非営利活動法人 International Foster Care Alliance (IFCA) | 国際学生会議 | 公益社団法人日本国際生活体験協会 (EIL) | 一般財団法人日本国際協力センター | NPO 法人じぶん未来クラブ | 公益財団法人万次郎ホイットフィールド記念 国際草の根交流センター (CIE) | ジュリアード学院 | Kizuna Across Cultures | ローラシアン協会 | ルミナラーニング | 全米日米協会連合 | 一般社団法人東京ニュービジネス協議会 | 認定 NPO 法人底上げ | パーソナル・ニュー・スクール・フォー・デザイン | ライス大学 | サンフランシスコ音楽院 | テイラー・アンダーソン記念基金 | 日米交流財団 | カリフォルニア大学パークレー校 | マサチューセッツ大学ボストン校 | ワシントンセンター | 特定非営利活動法人ウイメンズアイ | 一般社団法人 WIT(World in Tohoku)

TOMO DACHI



@TOMODACHI



@USJapanTOMODACHI



@USJapanTOMODACHI



@TOMODACHI_initiative

tomodachi.org